

編集・発行 **Mランド 益田校**
発行責任者 谷口 ひとみ

〒699-5131
島根県益田市安富町 3330-1
TEL 0856-31-5050
FAX 0856-25-1540
HP <http://www.mland-masuda.jp/>
Email info@mland-masuda.jp

皆さまからのご意見ご感想を
お待ちしております

本館の裏庭に、一本の梅の古木がある。暖かい寒期ではあったけれど、少し膨らみ始めた蕾が四季を感じさせてくれる。ガラス戸越しに梅の木を眺める小河会長の在りし日の姿を思い出した。「蕾が膨らみ始めましたね」と声をお掛けした。「そうだねえ。春が近いねえ」このやりとりで、暖かい春が私の心に芽吹いたのは、何年前のことだったのだろうか？

年末年始をMランドで迎えたゲストたち

やわらぎ部 研修講習課 吉岡 富弘

入社以来、瞬く間に時が経ち、他の企業ではとても体験できないであろうことを数多く積ませていただき、変化もさせていただいたと感謝しております。

今年も前向きなゲストのおかげで、一年の締め括りを、行事として形作りができ、数時間後にはご来光を拝することができました。次回も体調をしっかりと管理しながら参加したいと願っています。

ここ数年、業務はもとより、年末年始にゲストとともに参加している恒例の行事があります。美都温泉を舞台に行う年越しイベント、そして間を空けず翌朝、大道山々頂でのご来光を拝むイベントです。本を混ぜれば、家で休まばかり取っているのもどうかかなと思っ

余談ではありますが、山頂への道すがら、かなりお年寄りの男性が一歩一歩大変そうに登っておられました。思い余ってお歳を尋ねると、八十九歳とのこと、私にとっては驚愕でした。何と素晴らしいことだと、改めてこの男性にお礼をさせていただきました。健康とは、日々の目標があつてこそだと、この大先輩に教わりました。ありがとうございます。

移動時間がどれだけ掛かるのかとか、大道山々頂までの距離がどれだけあり、所要時間がどの位なのか分からないのにもかかわらず、ましてや足元も見えない山道で、「体がきつい」「寒い」「足が痛い」「疲れた」などと言うような退廃的な言動が全くないことに驚かされました。



今か今かの初日の出、何とかご来光を拝むことができました。良き一年の始まりです。



つきたてのお餅を食べるのは初めてかも～？ 伸びるんですね。幸せも健康も永～く！！

こちら女性陣は、甘いぜんざいです。よい年越しになりましたね。



杵で餅をつく。一振り一振りに願いと感謝の気持ちを込めて……。

年越しと言えば、おそばですね。そば粉をこねてその後切って、そうして美味しくいただきました。



田口久人の —前向きになれる名言集—

「セブンルール」

- 常識を疑い最善をつくす
- 今までの自分がしない 選択をする
- 今できることを続ける
- 変えられることに 時間を費やす
- 悩んだときは体を動かす
- 一人の時間を大切にす
- 寝る前に心と体を 労る

Mランドの新春は「初釜」茶会から……

一期一会部 コールセンター 課長 長谷川 由紀子

明歴々。

令和になって初めての初釜は、この掛け軸の言葉から始まりました。これは禅の言葉で、「明歴々露堂々」と続くものです。

初めて初釜に参加した社員は、濃茶をいただき一瞬間をしかめる者もおりましたが、すぐにこやかな表情になります。

物事の心理は深いところにあると考

を行なっている会社はほとんど無いのではと思つています。このように恵まれた環境にいることに感謝しつつ、また村上社中の皆様にもご尽力をいただきました。

四日間の初釜でしたが、皆がそれぞれに意味を味わいながらのお席となりました。

本場にありがとうございました。

令和初の新年祝賀会

クオリティー部 二種チーム 樋口 智久

一月四日に令和二年新年祝賀会を開催、今年には私を含め勤続十年めの同期の三人で企画進行を行いました。

度の企業目標と社員目標についての話でした。私自身これまで、今年

昨年の年末から社長が参加しての話し合いを持ち、今回は今までは違つた形で行うことになりました。会長の講話は椅子に座らず、健康のために立つて聴き、社長の講話では演台を会場正面に変え椅子に座つての聴講となりました。

社員目標の一つである「何にでも挑戦し最後まであきらめない」を特に意識して、この一年頑張っていこうと思つます。今回の企画、進行担当も今年初の挑戦、感謝しています。本場にありがとうございました。

小河社長のお話は、2020年の目標を全社員で共有しました。



会場からは、机と椅子を撤去し、立式により、松本会長の講話を緊張感をもって聴きました。



背筋をピンと伸ばし、正座で臨む初釜は気持ちも新たになりました。

掛け軸「明歴々」は、茶人でもあった七代松江藩主「松平治郷」の書によるものです。



小河社長のちよと大切な話



代表取締役社長
小河 吉彦

「茶碗の正面さえ解ろうとしない人は、物事の本質が解らない人で茶碗に對しても失礼です」

Mランドのお茶室「*無尽蔵」の待合室には、お茶に對する創業者の思いが掲げられており、これを見るたびに自分の未熟さを感じるのです。

世の中の幸せ、ゲストの幸せのために創業者が造った「無尽蔵」。このたび「無尽蔵」にて、新年のお祝い行事である初釜を執り行うことができました。私自身、初めて亭主を務め、社員とともに共有した空間は、至福の時でありました。亭主になり、初めて味わうこの気持ちは感慨深く、なぜ創業者がMランドにお茶室を造ったのか、少しだけ解ってきたように感じます。

このたび選んだ掛け軸は、「明歴々」でした。これは禅の言葉で、「明歴々露堂々」の最初の三文字です。

鍵山秀三郎先生の「一日一話」

習慣が人格を形成する

自分の人生を急によくしようとしても、よくなるものではありません。一つひとつ、よい習慣を身につける以外に方法がないと思います。よい習慣に裏打ちされたその人の行動が、全人格として表れます。商売をしている人は、お店の雰囲気にも表れます。物を作っている人は、物作りに表れます。

習慣が人格を形成します。

鍵山秀三郎「一日一話」——人間の磨き方・掃除の哲学・人生の心得——(PHIP研究所発行)

「一点も覆い隠すことなく、明らかに露(あらわ)れている」

物事の心理は奥深い所に隠れていて、誰もが簡単にみられるものではないと考えられがちであるが、実際は全くあからさまであり、隠すところなど微塵もなく、それが見えないとすれば、見ようとするだけか、目が曇っているだけにすぎないという意味です。冒頭にも創業者の言葉を引用しましたが、物事の真理、本質を捉えることの大切さ、難しさを痛感いたします。

私は「明歴々」という言葉に、物事の本質を捉えることの大切さとともに、「ありのままの自分を大切にして欲しい」というメッセージを込めました。

私自身創業者が亡くなり、当初は社員の皆を引張っていかねければならぬという思いが強く、背伸びして片意地張りながらやっていた気がします。

しかし、この一年社員とともに時間を共有することによって、「そうじゃない」小河吉彦ありのままで行けばいいのだと気付くことができました。社員の皆様には、今年一年ありのままの自分を大切に、自分自身を殺さず、自然体で、与えられた役割を全うして欲

しいと思うのです。

今月から多くのゲストと出会うシーズンとなります。苦み(濃茶)を共有した仲間とともに一丸となり、ゲストに勇氣と希望を与えられるよう充実したシーズンを創ってまいります。

さいごになりますが、お手伝いいただきました村上社中の皆様本当にありがとうございます。

*「無尽蔵」の名前の由来は、「無尽蔵井泉」という言葉から採ったもので、井戸の水は、汲めば汲むほど無尽蔵に出てくるように、人も考えれば考えるほど良い知恵(「變(やわらぎ)の心)が出てくるという意味が込められています。

「お茶の心」と「三宝」と

お茶は最高度に洗練され、又これ以上削り取ることができない最低限度の礼儀(マナー)です。お茶碗の正面を拝して飲むことは、お茶碗の心を謙虚さと譲る心をあらわします。茶碗の正面を解ろうとしない人は、お茶の本質が解らない人です。お茶に對しても失礼です。お茶に對して、同じように心を込めると、自然に言えるようになります。茶席では、正客(お客様)を代表する亭主と話をします。客(お客様)とでも言うのか、主客(主客)の場づくりの極意です。このあたり、ヨーロッパ先進諸国の民主主義と似ており、納得できます。利休が磨きに磨いたこのルルを茶席(茶席)に取り入れることが出来たら、世の中は目に見えて面白くなると思います。Mランドでは、お茶室が二つあり、折角お茶を奨励していただきます。切な目玉「家庭の宝」に、この知恵を特に使いました。

三宝とは

- 一、乗り物に乗ったときは、立っていることを原則にしよう
あなたは、**国の宝**です
- 二、公共の場に駐車するときは、出入口に遠い所に駐車しよう
あなたは、**地域の宝**です
- 三、家では父親にだけは、きっちり挨拶しよう
あなたは、**家の宝**です

新任部・課長の新年の抱負



国際部長
坂之上 太朗

「飛躍の年を迎えて」

二〇二〇年、東京オリンピック・パラリンピック年になりました。

私にとっては、入社して三十一年、指導員として選任を受けて三十年めの年になりました。全車種の指導員資格を取らせていただきその後は、これまでの全車種の検定員の資格まで取得させていただきました。この三十年間、いろいろな部署でゲストに向かい合い全力投球してきた足跡を、折に触れ感じることが出来、「光陰矢の如し」と言いますが、時の流れを感慨深く見つめている今であります。



共習部共習課長
山根 慎平

「新年に思う」

大晦日、毎年恒例となった美都温泉での年越しイベントが終わり、さっきまでの騒がしさが嘘のような静かな湯船に浸かった時、何とも言えず満たされた気持ちになりました。「今年も一年早かったですね」と私が言うと、「それはお前が動いていたからだ」と先輩社員が労ってくれて、またよい気持ちになって一年を締め括りました。先日行われた新年祝賀会、小河社長は「挨拶」「掃除」「譲る」を二〇二〇

出張授業「N明誠高校福祉科

福祉の仕事はとても重要である反面とても大変な仕事である。その大変な仕事には、やはり「希望」という光が必要で、治らないと言われる認知症も「改善できる」「自立できる」という目標があれば、やり甲斐も出てくるし、福祉に携わる人々も前向きに、そして仕事の質向上にも繋がると考える。

昨年末、益田市内の明誠高校福祉科の二年生を対象に、Mランドの「心身療法」を体験し、知ってもらうために高校の授業の一環として、やわらぎ部から二名のインストラクターが出張授業を行なった。この「心身療法」は主に認知症の周辺症状の改善を目的とした運動プログラムである。将来の福祉を担う若者に「心身療法」を知ってもらい、いつの日か自分で資格を取り、やってみようという気持ちになってもうれば幸いである。

何事もプラスに発展することこそ、人間のエネルギー源であり、やる気も出て来るものである。運転免許取得も例外ではない。そのプラスに発展することを仕事としてできるわれわれはとても幸せである。これからもMランドは若者に「勇氣」と「希望」を与えられる存在であり続けたい。(た)

除やイベントなどの場でもゲストと関わっていかうと考えています。今年私は四〇歳になります。私が子供の頃、四〇歳の父はとても頼りになる大きな存在でした。あの頃の父には到底かないませんが、四〇歳はまだ若く、大いなる可能性があると信じて業務に邁進します。そしてまた年末、静かな美都温泉に浸かりたいと密かに思っています。